

令和6年度 第2回発達障がい者支援地域協議会(全体会)議事概要

日 時 : 令和7年2月4日(火)

手 法 : オンライン開催

【司 会】永井会長

【参加者】(敬称略):いちこ委員 長田委員 川本委員 武田委員 石川委員 河内委員

菊地委員 田中委員 安本委員 坂井委員 大館委員 赤杉氏

松岡氏(オブザーバー)

東委員 廣部係長(事務局) 木内職員(事務局)

【書面参加】松本委員

【記 録】東委員

1 事務局説明 東委員

本協議会は、H17年度から設置されていた関係機関連絡会議をこの協議会に移行したのが令和2年であり、今年度で5年目となる。

本協議会では、発達障害者地域支援マネジャーからの地域課題の提起、各部会・プロジェクトチームでの取組の集約により、発達障がい児者、家族等への支援体制に関する課題の整理、情報共有、連携を進めるものとして、年2回開催している。

地域課題の提起は、第1部のおがる連絡会で説明済。第2部では、各部会・PTの取組についてを中心にすすめていく。

(1)委員について

・地域支援マネジャー石田委員→大館委員

※大館氏は、もともと本協議会委員であったが、地域支援マネジャーとして参加

(2)資料説明 別添資料のとおり

2 報告・検討事項 進行 永井会長

(1)各部会・プロジェクトチームの活動報告・次年度活動予定

ア 理解促進部会 大館委員

・ 報告書参照

- ・ アンケートから、発達障がいのある方が一般身体科を受診する際、様々なこと困りごとがあることがわかった。そこで前年度までは、一般向けに広く知ってもらうものと、少し深く知ってもらうもの、の二段階に分けたコンテンツを作成すると話をしていたが、医療従事者の方々がどういう反応をするのか、またどういうものが必要なのかということが見えず、まずはリーフレットのような軽いものを作成し、情報提供を目的で実施してみて、その後深めていこうという話になった。

- ・ あとはリーフレットプラス、受診の際に合理的配慮の申請のハードルが高いという課題があったので、予診票を作成し、何かしら医療機関の方とアクセスするようなツールの一つとして活用していただけるようなものを作成している。

リーフレットは医療機関の方々が、ちょっとした工夫でも楽になることがあるということを知ってもらえるとよい。

- ・ 予診票は、これを持っていくことで、少しでも医療機関の方と話しやすくなればよいということと、発達障害のある方々の工夫や支援は個別性が高いので、まずは入り口となるため、まずは簡単なものを作成したという経緯がある。
- ・ 予診票とリーフレットを見てもらい、修正がなければ完成版として来年度の配布に向けて準備を進めていきたい。

イ 家族への支援部会 安本委員

- ・ 報告書参照

支援のつながりプロジェクトで作成したテキストは、今年度中に詳細を作り込み、掲載している事業を所管部署、各機関に内容確認を実施。その上で次年度このテキストをどのように活用するかを検討できればと考えている。活用方法は、基本的に支援者が研修等の資料等として活用することを想定している。

ウ 支援のつながり PT 安本委員

- ・ 報告書参照

昨年度、家族への支援部会で取り組んだ Q-SACCS を踏まえ、市内の様々な社会資源の活用、各機関がどのような役割で支援をしているか、他機関へのつながりなどが見えるテキストを作成することを目的に、このプロジェクトを立ち上げた。今年度は幼少期、未就学のステージで作成。

- ・ 地域ケアパス編と事例編の2部構成。地域ケアパス編では、Q-SACCS ではわかりにくいところを地域ケアパスの図にしている。次ページに関係機関の数字に対応する目次のようなものをつけて、社会資源を紹介するページが続く。
- ・ 社会資源がどんな活動をしているのか見えるようにするため、事例に落とし込み、各機関の動きを説明したのが事例編となる。事例は、札幌で受けられるサービスをフル活用する典型的な事例イメージで作成した。事例の概要紹介、登場人物の訴えがあって、次のページで実際こういう対応をしてみたというような対応のページをセットにし、流れに沿って進んでいく作りとなっており、次は小中学校編に続くようにしている。
- ・ 当初は複数事例を作る予定だったが、1年で作れたのがこの一本であった。複数の事例、年代ごととなると、完成時期が見通せないことから、基本的に各年代の事例は一本にし、よくある支援者が困るエピソードや訴えをあるある相談として最後の2枚に掲載。
- ・ 次年度は小中学校編の作成と、乳幼児編の精査と活用について、検討していく。テキストの作成は「支援のつながりプロジェクト」、活用部分を「家族への支援部会」で検討していくという役割分担ですすめていきたい。

エ 発達障害児者地域生活支援モデル事業 PT 東委員

- ・ 報告書参照
- ・ 集中的支援自体は3か月間だが、これを最大限効果的なものにするためには、前後が重要である。事業所の体制が整っていなければ、そもそも集中的支援を実施する前に、基礎的なことの学びの時間が必要になり、集中的支援に入れない、時間が足りないということも想定できる。また強度行動障害の方について3か月ですべての課題を解決できる訳はなく、終了後も事業所のフォローを続けていく必要があるが、支援人材も限られている。
- ・ 今年度は集中的支援の中身をメインテーマとしたので、以上の課題を踏まえ、次年度は、集中的支援前後の体制整備をメインテーマとしたい。
- ・ R8の集中的支援実装にむけ、来年度「モデル事業PT」を「集中的支援(モデル・実装PT)」に再編。1つのPTで2つの内容を取り組むことにしたいと考えている。

(2)質疑応答・意見交換 意見聴取書：別添

ア 理解促進部会

いちこ委員

予診票のフォントが MS 明朝になっており読みにくい。予診票は本人が書く場合もあり、余白なども大きくして、見やすいと本人たちも書く気になると思う。

大館委員

コンテンツは札幌市 HP に掲載予定。各病院で、使い勝手の良いように工夫してもらう。フォントは直す。

いちこ委員 知的障がいのある発達障がいの方がいるので、ルビがあった方がいい。

大館委員 配付資料はルビなしだが、ルビありも作成済である。

河内委員

予診票や問診票は、各病院に存在するため、この予診票を使用すると、院内で予診票と呼ばれるものが2つになり、混乱しないか心配。サポートシートという名前であれば、多分病院には存在しないと思う。

大館委員

医療機関で馴染みのあるものがある方がいいと思ったこと、病院の問診票にこの要素を取り入れてもらうのもいいと思いこの名称にしたが、確かに予診票が2枚も3枚もあったら混乱するという考えもある。名称は部会メンバーとも再考したい。

永井会長

予診票(1)待ち時間については、待ち場所を問う項目のように見える。待ち時間であれば「30 分以内なら待つ」など、具体的な時間の選択になると思うが。

大館委員 言葉が足りなかった。待ち時間をどこで過ごすかということである。

東委員

当職も理解促進部会のメンバーだが、報告書のように、周知方法に困っている。医療機関向けのため、医師会には周知予定だが、広げていくためには、1箇所周知したから良いということではなく、家族会や福祉サービス事業所など、広く周知する必要があると考える。委員の皆様にも周知方法のアイデアがあれば聞きたい。

河内委員

他市の自立支援協議会子ども部会で動いた時に、歯科関連の周知をした際は、その地区の市の協議会でこういうのを作ったという文章を作成し、市の担当者がその地区の歯

科を全部回り理解を得たと記憶している。一緒に個別支援ファイルも持参し説明すると、理解してくれる病院は多かった気がする。

多分難しいのは、「待ち時間」の配慮が、病院によって対応が大きく変わる点。コロナ禍を経て、感染症予防のため院外で待ちたいという場合の対応をしてくれるようになったため、言えば待たせてくれるとは思うが。(2)(3)は経験上ほとんどの医療機関に理解してもらいやすく、こういうことは教えてほしいと逆に思っている病院が多い印象。

使用経験上、保護者の方にも使ってほしいと周知しながら、個別支援ファイル等と連動させてもいいかと思った。

大館委員

私たちも、どこか1カ所に周知すればいいとかではなく、地道な活動は必要と考えている。ぜひ親の会の協力もいただき、かかりつけ医で使用し、感想を聞きたいと考えている。待ち時間の過ごし方の対応は医療機関によって変わるので、難しいというところは削除するなど、自由度を高くして使ってもらう予定。待ち時間は、本人にとって不安で、特性が強く出やすいと思われ、配慮をお願いしたく、記載した経緯もある。

いちこ委員

待ち時間といっても、受付後の待ち時間、中待合など様々。待ち時間と待てる場所の説明を具体的にしてもらえるとありがたい。

また、予診票は病院側から渡してもらうのが、当初の利用法かと思うが、啓発用として本人や親御さんが、自身の受診の時に、率先して持っていける方を募り、「もし病院で使ってくれるのであれば、ここにアクセスしてください」など、広報部員になってもらう作戦もあるかと思う。自立支援協議会は、病院関係者はいないかもしれないが、看護師や歯科衛生士など職能団体の集まりがあれば、そこに周知するのはどうか。

大館委員

広報部隊は魅力的。本日松岡氏も参加しているが、歯科衛生士や看護師など、医師よりも近くで患者と接する人たちに知ってもらえると良いと考えているので、検討したい。

永井会長 医療ソーシャルワーカー協会と精神保健福祉士協会はぜひ周知してほしい。

長田委員

様々な面から、このような取組を各医療機関で知ってもらうのが先と考える。親の会としては、会員全員ではなくても、「使ってみたい！」という方を通じて少しずつ広げていく。それもまず一つかと思っている。

子どもたちは、年を重ねるごとに、生活習慣病など発達障がい以外の病気が出てきて、医療機関受診が増える。自身も受診同行の際、小さな紙に「発達障がいがあるのでコミュニケーションが苦手で、親と一緒についてきました」と書き、受付で渡している。すると、看護師や医師が言葉遣いを微妙に変えてくれるのが伝わる。なので地道にこういう啓発活動をやっていきたいと思った。

大館委員 地道な活動が必要だと思う。ぜひ親の会の協力をお願いしたい。

松岡氏

いちこ委員から、歯科衛生士という発言があったが、自身は北海道歯科衛生士会札幌支部の支部長である。歯科には障害歯科という科目があり、障害協力医師会衛生士制度の認定を北海道で作った。北海道でおおよそ 80 人の歯科衛生士が登録予定。そういった団体への周知は可能。障害歯科では問診票と予診票が別々にあるのが普通である、内容がダブらなければいいと思うので、後日データを送ってほしい。

大館委員

歯科は歴史の経緯から、障害歯科というのがあり、心強いと思っている。そこに松岡氏がいるのは大変頼りになる。ぜひ内容を御確認いただき、ブラッシュアップしていきたい。

イ・ウ 家族への支援部会・支援のつながりプロジェクト

いちこ委員

ガイドブックは、研修とセットで使用する、研修とは別に公開されるものではないという理解で良いか。

安本委員

研修会ありきのテキストではない。例えば自己学習資料として使ってもらうなど。ただ、それだと作成した意図が伝わらない場合もあるため、我々としては、研修会の中に取り入れた使用を考えている。

いちこ委員 例えば、自己学習用の動画を作るなどは想定しているか。

安本委員 活用方法はこれから検討するので、いいアイデアをいただいた。

いちこ委員

事例編もアニメのように人や声を変えるなどできたら楽しそう。固い話だけではなく、地域ケアパス編が難しくても、事例編を見て「あ、そういうことか」「もっと知りたいな」という風に、テキストを行き来できるようなものであればと思った。

安本委員

地域ケアパス編は、社会資源の羅列でわかりにくい。今までのガイドブックも同様。そこが事例編を通してわかりやすくなればと思う。

永井会長

地域ケアパス編はボリュームがある。目次をクリックするとページに飛ぶといった工夫が必要。また、事例編7コマ目など、(みんなの思い)が入ると思う。

安本委員 もう一度見直し、修正する。

東委員

テキスト作成に参加している。テキストは「支援のつながり」を意識して作成した。各関係機関の目で見ても、こちらの意図が伝わるかが気になる。意見を聞きたい。

永井会長

使い勝手など、新たな目線からの意見がほしいということだと思う。各機関いかがか。

いちこ委員 修正点があったので。13枚目のイラスト、人とコメントの位置が反対である。

安本委員 修正する。

いちこ委員 1年1事例が精一杯だというのは、大変だったと思う。この先が楽しみである。

永井会長 各機関の方から一言ずつ、感想や意見をいただいてよいか。

武田委員

支援つながりガイドの活用法は、自身の中で青写真が描けていない。しかし、内容は素敵だった。資料が多いので、目次から個々のサービス説明に、クリックしたら飛ぶようになるの見やすい。ホームページ上ならそのようにでき、使いやすいのではないかな。

赤杉氏

資料はわかりやすい。目次からクリックすれば必要な資料に飛ぶようになればよい。

また、第1部での坂井委員の「支援の目的」という発言のように、こういうアセスメントでこういう目的だから、この支援につながるという記載があるとよい。使う側にその意識がないと、ただ「この子はここに相談すればいい」ということになりかねない。そのことを前提として理解があった上で、これが使われていくとより良いものになっていくのではないかな。いちこ委員から自立支援協議会というワードが出た。ワン・オールで全市の協議会の事務局をしている。協議会で、行動障害のある方の支援や住まい等が足りないという課題が出ている。そうした時に、発達障がいの方の研修や話題がどこで検討されているのだろうということが、協議会の運営会議の中で話題になった。自立支援協議会は、発達障

がい関係の方ばかりではないので、発達協議会と自立支援協議会で情報の行き来ができるように事務局として心がけていきたい。

永井会長

この事例のセリフの裏にあるアセスメントが見えると、より確かに汎用性が高まるかもしれない。ボリュームとの兼ね合いになりそうだが。

田中委員

内容は活用できるものではないかと考える。一方でボリュームがあるので、テキストで展開した時に、具体的なテキストの活用方法などが1ページ目に書かれてあると、初めて活用する場合使いやすいと思った。

石川委員

自身も家族への支援部会メンバーである。事例を追っていくことで、つながりが見えやすくなっており、いいものだと思ったのと合わせて、あくまで1事例であり、今回は特別支援学級に行くことになったが、捉え方によって発達障がいのある子の選択肢がそれしかないように思われる可能性がある。それ以外の選択肢があること、こんなつながりもあるなどが伝わればいいと改めて感じた。

安本委員

部会の時の意見も踏まえ、例えばその普通級で受けられる支援みたいなものもスライドで掲載できたらいいと考えている。それが事例編ではなく資料編になるため、見せ方が課題。事例編から飛び出す別のパターンをどのように表現するかが難しい。次が小中学校編なので、そのあたりで、取り込めないかと考えている。

菊地委員

ガイドは、支援者向けで見やすく、ぜひ活用したい。紙ベースかウェブ上かということは今後の課題と考える。自身だと、ウェブ上で見れるのはよい。

あとは、事例紹介もボリュームがある。今回は1ケースだが、ケース数が増えた時に、情報が多いと誤解を与える可能性があるため、どうすればいいかと思いながら見ていた。

安本委員

基本的に紙ベースというよりは、ウェブ上での掲載をイメージしている。研修ではパワポデータとして活用する。今年度はこれを公にできるところまで持っていきたい。関係機関に、掲載の許可が必要なため、その時は協力願いたい。

永井会長

データを活用だと、スマホ対応等も検討が必要か。引き続きプロジェクトで検討を願う。

エ 発達障害児者地域生活支援モデル事業プロジェクト

永井会長

発達障害児者地域生活支援モデル事業プロジェクトからの報告について質問、ご意見はあるか。意見がないようだが、内容や方向性に関して、承認と言うことで良いか。

東委員

内容に意見はないということで一言。報告にもあるが、札幌市では令和8年度からの集中的支援加算実装に向け体制整備を開始している。来年度は準備期間になる。決定事項は適宜情報提供させていただく。新しい取り組みになるため、ご迷惑をかけることがあるかと思うが、協力をお願いしたい。

永井会長 ではまた改めて次年度検討していくということで、引き続きお願いしたい。

3 委員からの情報提供、その他

(1)長田委員

ペアレントメンター事業の中の一つとして、一般啓発のための公開講座を毎年実施している。Youtube 配信しており、安本委員にも登壇いただいている。ぜひ見てほしい。

(2)東委員

発達協議会のホームページを作成した。今後部会やプロジェクトで掲載してほしい情報などがあれば連絡いただきたい。

(3)来年度委員について

発達協議会(全体会)の委員委嘱期間は2年間(R6～7 年度)。継続が難しいの委員の方は、ご一報いただきたい。